

平成29年度第4回渋川市総合教育会議 議事録

I 開催日時

平成30年3月28日（水）午後3時30分開会 午後4時45分閉会

II 開催場所

渋川市役所第二庁舎203会議室

III 出席者

【構成員】高木勉市長、池田由美子教育委員長、高橋秀和教育委員長職務代理者、新井光久教育委員、高橋秀樹教育委員、後藤晃教育長

【市長部局】愛敬総務部長、加藤企画部長、諸田保健福祉部長、角田財政課長、後藤スポーツ課長、石田社会福祉課長、橋爪こども課長、儘田企画課長、事務局職員3名

【教育委員会】石北教育部長、藤岡教育総務課長、名塚学校教育課長、綿貫学校給食課長、萩原生涯学習課長、小林文化財保護課長、担当職員2名

【傍聴者】 6名

IV 会議の概要

1 開会

企画課長	皆様こんにちは。本日はお忙しいところご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。 定刻になりましたので、ただいまから平成29年度第4回渋川市総合教育会議を開会いたします。この会議の進行を務めさせていただきます企画課長の儘田と申します。 よろしく願いいたします。 開会にあたりまして、高木市長からごあいさつを申し上げます。
------	--

2 市長あいさつ

高木市長	皆様こんにちは。 平成29年度第4回渋川市総合教育会議を開催するにあたりまして、一言御挨拶を申し上げます。いよいよ春本番となりまして、市役所の前の桜も一気に咲き始めました。教育委員の皆様におかれましては、お忙しい中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。また、当初予定していた日程から変更しての開催となりましたことを心からお詫び申し上げます。 さて、昨年から取り組んで参りました第2期渋川市教育振興大綱の策定につきましては、教育委員の皆様からご意見をいただき、また市民意見公募を実施いたしまして2月に策定することができました。策定にあたり教育委員の皆様には十分なお協議をいただきましたことに心から感謝を申し上げます。 本日は、平成30年度予算について及び組織機構の見直しについてお示
------	---

しをいたします。予算につきましては3月の市議会定例会に提案し、議決をいただいております。今回はその内容を教育委員の皆さんにご説明をさせていただきたいと思っております。教育内容、そして教育環境、食物アレルギーなどの安全対策、そういった色々な事に配慮しまして日本一の教育都市・渋川にして参りたいと思っております。教育委員としっかりと意思疎通を図りながら地域の教育のあるべき姿を共有して教育行政を進めて参りたいと思っております。今後ともご協力をいただきますようによろしくお願い申し上げます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

企画課長

続きまして、教育委員会池田教育委員長より、ごあいさつをお願いいたします。

3 教育委員長あいさつ

池田教育
委員長

皆様こんにちは。

第4回渋川市総合教育会議にあたり教育委員会を代表いたしまして、ごあいさつ申し上げます。

この総合教育会議ですが今年度に入りまして既に3回の会議が開催されました。いずれにおきましても、その会議におきましては教育全般に関する取り組みについて熱心にご協議いただいたところがございますが、今回が今年度最後の会議となりました。高木市長さんには本市の教育行政の推進のために総合教育会議を開催していただきましたことに御礼を申し上げます。

今回の会議におきましては、市長部局より平成30年度予算について及び組織機構の見直しについて説明される予定と伺っております。平成30年度予算につきましては、これまで熱心に予算編成を重ねられての成果であると思っております。教育委員会といたしましても本市の総合的な教育振興に関して、この総合教育会議を通じ要望や意見を申し上げて参りました。今回の会議資料を拝見し、その結果が適切に反映されているものと考えております。また、組織機構につきましては市全体の行政運営がスピード感を持ってスムーズに行われるような体制になっていると感じております。

さて、各地から桜の開花が伝えられ今年は例年より早い桜の季節となり、いよいよ春の訪れとなってまいりました。この季節は学校では新入生を迎える時期となり、生涯学習の分野ではそれぞれ新年度の事業の準備が始まっていると思っております。学校教育におきましては、全ての子ども達が自分の希望する未来を実現できる力が身につけられるよう、また、生涯学習など社会教育の分野では市民一人一人が心豊かに充実した生活を実現できるよう願っております。

本市におきましては、既に第2期教育振興大綱を踏まえ、平成30年度渋川市教育行政方針が昨日の段階で議決され決定されました。この総合教育会議が来年度におきましても教育行政の推進のために積極的に活用され、本市の教育行政が一層充実、発展することを願いまして教育委員会を代表しての挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

4 報告事項

報告事項「平成30年度予算について」「組織機構の見直しについて」

企画課長

それでは、次に報告事項に移らせていただきます。

渋川市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定によりまして、市長は会議の議長となるとされておりますので、この後の進行につきましては高木市長にお願いをいたします。

高木市長

それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。報告事項(1)「平成30年度予算について」と(2)「組織機構の見直しについて」は一括で報告させていただきます。事務局から説明をお願いします。

●【総務部長説明】 【資料No.1】

高木市長

事務局の説明が終わりました。

本日は、予算や事業内容などについて、ご質問やご意見を伺いたいと思います。委員の皆さんは発言をお願いいたします。

池田教育委員長

先ほど、予算についての説明をいただきました。13ページの194番と195番についてお話ししたいと思います。

新規で渋川グローバル教育推進事業、そして昨年度と引き続いて英語教育充実事業ということで予算化していただきました。平成32年度から小学校では新学習指導要領が完全実施されます。来年度から意向を踏まえて子ども達の外国語教育の充実、そして教員の英語指導力の向上に向けて予算化が図られたことについては非常に感謝申し上げたいと思います。教育委員会といたしましても、費用対効果が上がりますように指導していくとともに、実施した結果についてはよく精査し工夫、改善をしながら完全実施に向けて努力していきたいと思っております。

そこで、新学習指導要領の改訂の大きなポイントとなっております外国語教育について、前回、策定した大綱におきましても国際理解や多文化の共生社会に生きる力の育成ということに関連づけまして、高木市長さんがお話ししている教育都市・渋川を目指したいということなので、特にこの外国語教育についての高木市長さんのお考えをお聞かせしていただけたらと思います

高木市長

外国語教育は、これからの国際社会に通用する人材を渋川からも排出していくという意味で大変重要なことだと思っております。一方で日本語もしっかりと勉強しなければいけないと思っております。日本の歴史、そして正しい日本語をよく勉強していただく、それから日本の精神を学ぶ道徳教育、こういったことも今度正規の教科になりますけれども、併せてやっていかなければいけないと思っております。

外国語教育についてのやり方は、色々なやり方があると思っております。群馬県でも他の地域で先進的な取り組みをしているところもあります。廃校舎を使って夏休みとか一年間、一定の環境に入って勉強する倉渕村や前橋市の政策もあります。いずれにしても、小学校の早い段階で外国語に慣れるということが必要だと思っております。ただ、あまり細かいことを低学年から教えるというのも逆に外国語嫌いになってもいけないので、自

然な形でそういうものに溶け込んでいくということで、学年毎に外国語教育のあり方はよくしていかなければならないと思います。併せて、指導する教員の体制もしっかりしていかなければならないと思っております。外国語教育はいろいろな課題がありますけど総合的に取り組んで行きたいと思っております。そういうことも含めて、教育都市・渋川と言われるようになればと思います。

池田教育委員長

ありがとうございました。

やはり、国際化が進む中で外国語というのは必須不可欠のもので、是非渋川市におきましても今後、教育振興として続けていただければと思っております。以上です。

高橋教育委員長職務代理者

私は3点、一つは新学習指導要領への対応についてと、もう一つは児童、生徒の個別の必要性やニーズに応じた対応、教職員の多忙化について、今回、予算案を見させていただいて感じたことをお話ししたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

先ほど、委員長がお話しになった外国語教育を充実させるということと、新学習指導要領への対応なのですが、今後、益々重要になってくると思いますので実施した状況を確認しながら更に前に進めていただければありがたいと思います。

それから、児童、生徒の個別の必要性やニーズに応じた対応ということで、今回の30年度の予算の中にもありますし、補正の中にも出てきたのですけれども、一つは特別支援教育、支援員さんですとか一人一人の子どもに寄り添って対応できる、そういうものが配慮された予算になっていますし、それから、アレルギーですね、7大アレルギー、共同調理場でアレルギーを持つ子どもたちのために対応するという新しい予算も入っていますので、これはありがたいなと思います。

それから、教職員の多忙化、これは教職員だけではなくて生徒にも恩恵が及ぶと思うのですけれども、中学校の部活動の指導員の派遣ということで新しい予算をつけたものなのですけれども、教員も多忙なのですけれども子ども達にも指導が行き届いて、いい成果が現れるといいなと、教育委員会の方でもこの辺をしっかり活用して進めていきたいと思うのですが、社会的な要請とか学校現場、子ども達の保護者からの要望は多岐にわたると思うのですけれども、今後とも是非、実施した状況を見ながらより推進してもらって充実させていただければありがたいと思います。

今言った中で、市長さん、私はこれがという何か思いがあることがあればお話しいただければと思うのですがよろしくお願いいたします。

高木市長

特別支援教育、食物アレルギー、教員の多忙化、それぞれ皆大事なことだと思います。その中でも、私も力を入れていきたいと思っておりますのは、先日、教育研究所にも行きましたら、学校に適應できない子どもさんが非常に増えてきているということ、そういう現状があるようです。その子どもさん一人一人は本当に感性が高くてそれぞれいい子なんです。学習意欲もある子なんですけれども組織の中に中々溶け込めない、何かの原因で組織から抜け出そうとする、そういう気持ちが働いているんだろうと思

ます。そういう立場にある子ども達をしっかりと教育して力をつけさせていくような、そしてまた学校へ戻って皆と一緒にやっていけるような、そういった子ども達の支援をしていきたいと思えます。

それから、もう一つは食物アレルギーですね、体が色々な形で食物を受け付けない、アレルギーを起こすという、これも時代と共に増えてきております。そういった子ども達が増えてきているということは、学校給食で皆と一緒に給食を食べる、食育をする、そして学校給食の無料化も公平に受けられると、そういうことが大事だと思います。

やはり、子ども達の教育は公平・公正にやっていかなければならないと思えますので、数が少ないから置いておいていいということではなくて、公教育の一番大事なところは、数が少なくとも同じ教育が受けられるということが一番大事なことだと思っております。そこで、アレルギー対応の給食調理場を整備して、できるだけ早くアレルギーを持つ子も一緒に給食を食べられるようにしていきたいと思っております。平成32年の2学期からと計画されていますけれども、私は文化財も予定地から出なかったようですので、できれば前倒しをしていきたいと思っております。

池田教育委員長

今、市長さんが7大アレルゲンに対応した共同調理場の整備ということで前倒しをしていけたらという力強いお言葉に大変うれしく思いました。今年度、学校訪問をしていく中でアレルギーの子どもにエビ天を使用した学校もありました。ですから、本当に喫緊にアレルゲン対応については整備をしていかなければならないと思ったところにこの予算化がされたということで、非常に教育委員会としてもありがたいと思っております。

やはり、教育委員会としても稼働をできるだけ早くということなので、本当にありがたいと思うのですけれども、実施するにあたっては色々の課題も見えてくると思えます。よく調査をして課題はどこにあるだろうか、問題はどこにあるだろうか、そしてまた広げるためには何が問題になっているのかを十分に検討しながら拡充を進めていきたいと思えます。以上です。

高木市長

教育委員長の話は、私も同じ思いであります。実施をすることには目的をしっかりと持って着実に準備をしなければいけないと思っております。目標をしっかりと持って、こういう方向で行くんだという強い方針を示すことが現場での作業に影響すると思えます。今日も教育部長に話しましたが、アレルギー給食、アレルギー対応については群馬県でトップランナーとして進むんだということを持って、関係する栄養士さん、調理師さん、学校の先生に協力していただくということで、できるだけ早く進めて欲しいという話しをしたところであります。

新井教育委員

私の方からは感想と確認ということで2点ほど述べさせていただきます。教育費の予算の中で、中学校運動部活動指導員の派遣事業が新規事業となりまして、これを受けて先生方の多忙化の解消がなされることを期待したいと思えました。

確認なのですが、教育的な分野とは角度が違いかもかもしれませんが、組織の見直しの中で、まちなか再生という言葉が出てきました。その部分で市

長さんのお考えをお聞かせ願えればと思います。

高木市長

渋川のまちなかが都市計画、区画整理が進んできれいになりましたけれども、賑わいが非常に無くなってきたというのは、新井教育委員もご存じだと思います。私の子どもの頃は、四ツ角に行って夏祭りがあるとごった返すような人出で、今はその名残も無くなってしまった。そこで、何とかしてまちなかに賑わいを再び取り戻そうと思っています。それで、どこから手をつけていこうかを私も考えてきましたけれども、やはり駅前から賑やかにしていこうかと思っています。駅前広場を改修して駅前に賑わいが戻るようにしていきたいと思っています。駅前のロータリーは、今、皆さんも利用されていると思いますけれども、タクシー乗り場が一番遠いところにあります。そこにタクシーが駐車していますけれども、やはりタクシーを利用される方というのはご老人や体調の悪い方が多いわけですので、一番駅に近いところに持って行きたい。それから、タクシーが滞留している場所は不要になりますから、いろんなイベントで賑わいが出るような広場にしていきたいと思っています。そこを中心に渋川の四ツ角に向かって賑わいが戻ってくればと思っています。ちょうど今、ベルクも出来て状況も変わって人の流れも出来てきたと思っていますので、点から線に、線から面に広がっていけばいいと思います。これは、相当大変な仕事だと思っていますので、しっかりと組織体制を整えてやっていかないとと思っています。新年度4月にまちなか再生室という組織を作ります。その組織を中心に進めたいと思っています。その拠点として、渋川の駅前に昔、伊勢屋さんという店があった所を拠点にしたいと思っています。どういう使い方をしたらいいのか検討させております。ちょうど駅の相向かいに名産品センターが置いてありますけど、なかなかそこに行くのが道路一つ渡って地下道をくぐったりしますから、そういう名産品センターを出来るだけ近い所に持ってきたいと思っていますし、ボランティアの方も含めて、あそこは3階の建物ですので多目的にまちなかの賑わいを取り戻す拠点になればと思っています。出来れば、まちなか再生室もそこにあってもいいのではという思いもありますけれど、効率性の点と合わせて検討していきたいと思っています。

新井教育委員

ありがとうございます。

点から線へ、線から面へということで、市長のおっしゃっていることはよくわかりました。教育都市・渋川を目指すとは常々市長さんはおっしゃっていますから、そういった意味では先ほどおっしゃったような人の往来とか、それが地域を作って、地域から地域のコミュニティとなって、という意味では教育環境、子ども達の生活環境を創り上げるという、そういうまちなか再生であるのかなという感じを受けましたので、私もしっかりと協力していきたいと思っていますし、意見交換が出来て教育都市・渋川のためのまちなか再生、そんな位置づけができるということを期待しております。

高木市長

ただ今のことについて、先日、渋川女子高校の一年生が総合教育の時間で、渋川を良くするのにどうしたらいいかという、10グループくらいあるのですが、色々調査をして研究をして提案してくれまして、その中に

も非常にいいものがありました。街を賑やかにするのに英語村を創ったらどうかとか、スタディバンクを増やして欲しいとか、黒板アートを使ってPRしたらどうかとか、自転車を置いて自転車で廻れるようにしたらどうかとか、色々な観光マップを網羅的ではなくてカップル向けに作ったらどうかとか、老人向けですとか色々な目的別に種類を作って使い分けたらどうかとか、若い人たちの非常に感性豊かないい提案がありましたので、そういったことも積極的に行政としても取り入れていきたいと思えます。

高橋教育委員

私も教育委員としてはもちろんですが、子どもを持つ親として、子ども達が毎日元気に生き生きと学校なり幼稚園に通っていく、それがやっぱり目指すべきところではないかと思えます。そういった教育の力を通して渋川市も元気になるということが究極の目的ではないかと思えます。予算を見させていただいて、今回は新規の事業といたしまして小学校のトイレ改修事業というのが予算が付きました。日常生活のほとんどの時間を子ども達は学校で過ごすと思うのですが、こういったことも非常に大事なことなのではないかと思っており、良かったなと思っております。

それから、渋川グローバル教育推進事業、これは英語教育ですけれども、これとか、市長肝入りの7大アレルギー対応ということで共同調理場が新設されるということで、これも渋川市の子どもの日常生活を大事にしているという新たな挑戦ではないかなと、先進的な挑戦ではないかなと思っております。

常々市長も言われているように、渋川市全体はもちろん一つの地域なのですけれども、赤城なり北橘なり伊香保もそうですが、地域の地域力といえますか、そういったものも大切にしていかなければならないということで、例えば伊香保、どうしてもイベントといいますと観光イベントということで、市長も直近の雛祭りでは2日間お出ましをいただきまして見ていただいたのですが、観光とかそういったものももちろんあるのですが、実は地元の人たちの活力とかですね、地元のいいところがあるんだという再認識をするということで、半分は地元の人たちに元気を与えているような感じがしているのです。ですからこういった地域の、郷土のお祭りとか行事ですとか、そういったものも他の地域に行き行って勉強して、そういったところでも渋川市が元気になればいいなという感想を持っております。

その点に関連してなのですが、今、商業地区とかそういったところでは空き店舗対策ということで色々考えられているのですが、廃校舎、空き校舎対策について、これはもちろん市の財産です所以市の意向があると思うのですが、地元の人たちも色々考えなければいけない。学校というのは自分たちの地域の拠点になっていた部分ですから、その辺を含めてですね、もちろんこういった考え方があるのですよと市にぶつけていくこともあると思うのですが、その辺を市としてどのようなスタンスで考えられているのかということがお聞きできればと思いますのでよろしくお願いたします。

高木市長

子ども達が減ってきて、教育環境を整えているのに一定の統廃合もやむを得ないと思っております。渋川もそういうことで学校の統廃合を進めてきました。その結果、今、4箇所の廃校舎があります。廃校舎と言ってしまう

が元気がありませんけど、やはり一つの資産だと思いますので、これをしっかりと活用していこうと思っています。これは、学校として使っているのは教育委員会が所管しているわけですけど、学校教育としてだけではなく今度は色々な意味で資産として幅広く活用していこうということですので、新しく資産経営課という課を新年度に作りまして、廃校舎の4校だけではなく他にも色々な資産がありますので、そういった資産を活用していく、資産価値を高めていく、そういう視点でいわゆるファシリティマネジメントという、これはアメリカで始まったことですけど、そういう発想で市の施設を見ていこうということにしております。そういう中で、どういう活用があるかということは地域の皆さんにもよく考えていただく必要がありますし、役所で考えることもありますけど、もっと広くですね日本全体にこういう廃校舎を活用して地域興しなり地域振興なり色々なことに使えるアイデアがないかと、そういうアイデアを募集してですね、前橋などでもやっていますけども、サウンディング型市場調査という言葉が使われますけど、色々なアイデアを出してもらって意見を交換しながら新しい活用方法を見いだしていこうと、そういうようなことを導入していこうと思っています。また併せて、赤城には南雲小、刀川小があります。赤城は非常に環境のいいところですので、日本版のCCRCのような生涯現役の街みたいなものが、温泉は有り、診療所は有り、駅は有り、そして廃校舎もある。そして特別養護老人ホームといった老人施設もあり、色々な施設もありますから、そういう中で一つの資産としてそういうものを使えないかというイメージもありますけども、いずれにしても色々な形で廃校舎を活かしていきたいと思っています。新年度、その体制を作ったので、それを活かしていきたいと思っています。

高橋教育委員

力強いお言葉をいただきました。先ほどの新井さんもまちなか再生事業についてご質問があったのですが、渋川市全体が教育に限らず元気であるということが大切だと思ひまして、それには教育力と地域を大事にする、誇りを持つ郷土力と、もう一つはおもてなしをする。地域の人たち全体がそういったスタンスで臨んでいくことが、地域が元気になるバロメーターだと思います。今、市長がおっしゃられた空き校舎を拠点として活用して、それが一助となればいいと考えておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

高木市長

渋川を元気にするには地域が元気にならないとですので、毛細血管のようなそれぞれの地域が力をつけていくことが大事だと思っています。地域力をつけるには、一番何よりも地域に誇りを持つということだと思ひます。地域に誇りを持って地域に愛着を持つ、そのことが地域力を高めていく一番大事なことだと思っています。しばらく前に、上毛新聞の高校3年生を対象にした意識調査がありまして、自分たちの生まれた故郷に愛着があるかというアンケートで、渋川市が12市中12番目に低かったということで、これは大変なことだと思ひました。小学生、中学生、高校生、自分たちの住んでいるところに愛着を、誇りを持たなければいけない、そのことが将来のUターンに繋がっている、地元に戻ってきて結婚したり活躍をしてくれることに繋がっていると思っていますので、人口減少対策の

一番大事なことは、子ども達に地域に愛着を持ってもらう。それぞれ地域にいいものがありますので、それぞれの地域の特性、例えば、三原田の歌舞伎舞台ですとか、深山のヒメギフチョウですとかもありますので、そういったことを小学校、中学校の活動に取り入れられればいいかなと思います。

池田教育委員長

先ほどの市長さんのお話の中で、統廃合のこと、私もお話ししたかったことなのですが、私は赤城に住んでおりますので南雲の住人の声がよく耳に入ってくるのですが、放置が長くなれば長くなるほど、荒廃して土地も荒れたり校舎も荒れたり、そういうものを長い目で見たときに非常に心寂しいところがあります。でも今、お話しをお聞きしますと、資産経営課を設置して色々なアイデアを募集して、そして廃校になったところを利活用し、それを活性化させることで地元も元気になるというお言葉をいただき、ありがたいなと思います。そういったことをスピード感を持って市の方では経営していただきたいということ、そしてそれを地元住民に発信していかないと、市は何をしているんだ、このままでいいのかという焦りも出てきている状態の声を聞きます。ですから、市民の方へも情報発信をして、今こんなふうにして廃校舎の利活用を進めているということを地元住民へ説明することも大事だと思います。文化の拠点であった、ましてや南雲小は山間の小さな部落の中の小学校だったので、自分たちの誇りとしている小学校でした。利活用が十分になされて、それが活気を持って進めていくということで、地元の人たちも小学校が無くなったからここにはもう住めないよね、子育てには無理だよねという思いではなくて、学校はないけれど通学バスで通うことで赤城の良さを再認識させる、そういったことも一つの廃校の利活用なのかなと思いますので、是非、地元住民への発信も併せてお願いしたいと思います。

高木市長

役所の人たちは、しっかりしたものに固めてから話しをしないとという思いもあるんだろうと思います。仮に駄目になってもいいからやってみたら、そういった中で色々たたいて、いいものが育っていくのではないかなと思っていますので、スピード感を持って出来るだけ情報を公開して、まだコンクリートされていない段階で皆さんに意見を出してもらうようにしていきたいと思っています。

後藤教育長

市長と教育委員との意見交換を聞かせていただいて、いくつか感じたことを述べさせていただきます。はじめに、市長のおっしゃった公平、公正、教育の機会均等、平等、こういったこととの関連でまず一つはアレルギー対応、これは公平、平等に通じる問題で少しでも早く対応を進めて行きたいということが一つと、それと加えて学校に普段通えない子は学習面での不平等といいますか十分な学習が出来ない環境に置かれております。これをどうやって解消していくか、非常に難しい問題で、個々の生徒に特性がありますので、公式はないと思いますけど、そのために教員の指導力はもちろんでありますけれども、児童、生徒、同級生たちの関わりもどうかということをお考えすると、やはり全ての子どもが自己肯定感の持てる教育を進めることが近道ではないかと思っております。そのためにどうするかと

いうことで色々な試みはあると思うのですが、一つは先程から出ておりました地域の歴史とか文化を学ぶ、それから地域の色々な行事に参加する、勇気を持って参加するといいますか、参加力のようなものが大切ではないかと思えます。そのためには、家族の、保護者の協力も必要になってくるのではないかと、そして、友だちの力といいますか一緒にやってみようという空気が芽生えてくる必要がある。そのために人権教育がどれだけ重要かというように考えております。それから、特別支援の話も出て参りまして、発達障害系の子どもさんも、あるいは情緒障害の子どもさんもいるわけですが、こういった子どもさんについてもその能力に応じて等しく教育を受けられるような、そして、できるだけ理解できるようなですね、教えられたという機会だけではなく、より多くの子どもさん、出来れば全ての子どもさんが理解できる教育が必要だと、そのためには教員の指導力の向上が何より重要であると思っております。これに関連いたしまして、市長の英語教育に対する考え方も非常に感銘を受けたところでありますけれども、英語の充実とともに日本語、そして歴史、道徳も併せて、さらに英語嫌いの子どもの出さない、そして教員の指導力向上ということが全く同感に思っております、教育委員会としてもこういった基本的な考え方のもとに教育行政を進めていくべきだと強く思っているところです。

高木市長

教育長の発言も本当に大事なことだと思います。日本語をしっかりと学ばなければなりませんし、日本の歴史もしっかりと学ばなければいけないと思います。高校の歴史の中で日本史が必修になっていなかった時代があったそうです。世界史は必修だけれども日本史は選択でいいと。それはおかしいのではないかと私も色々なところで意見を言ったことがあるのですが、その後、日本史も必修になったのではないかと思います。やはり、自分たちの国の歴史を学んで、地域の歴史を学んで、そこから、郷土を愛し国を愛する、そういうことが生まれてくるのではないかと考えていますので、国際化に対応したグローバル教育も大事ですが、一方で日本の精神、日本の言葉、そういったことを小さいうちから学んでいくことも大事だと思っています。

ほかにご意見がありましたら、ご発言をお願いします。(意見なし)

5 その他

高木市長

それでは、続きまして次第5の「その他」に入らせていただきます。事務局から何かありますか。

企画課長

事務局からは特にございません。

高木市長

委員の皆さんからは何かございますか
それでは、ないようございますので、以上をもちまして終了させていただきます。

6 閉会

企画課長

以上をもちまして、平成29年度第4回渋川市総合教育会議を閉会とさせていただきます。
ありがとうございました。